

独立行政法人教員研修センター委嘱事業

教員の資質向上のための研修プログラム開発事業

実施報告書

プログラム名	教員向け経済教育「人生は選択の連続だ」
プログラムの特徴	<p>教員意識の中には、担当教科の指導はプロとしての「自信」がある反面、教えている内容が社会で生かせる知識として本当に生徒の身に付いているかどうかという「不安」が混在している。更に、実際に起きている社会現象と、それらが理論化された学術体系の双方ともに、難し過ぎて教えられないという一種の「忌避感」もあり、<u>これら三種類の感覚が教員意識の根底に「どこか自信のなさ」に似た感覚を沈殿させている。</u></p> <p>教員が「自信のなさ」を感じる原因は何か。人は「社会の仕組みや経済の働き」について必要程度に理解しながら生活しているが、この理解の程度が低い場合、生きていくということ自体に不安感を持ってしまう。</p> <p>それに加えて、「<u>教員は社会性が乏しい</u>」という一般人が抱いている概念が教員にも伝播して、「<u>私たち教員は社会性が乏しい</u>」などという自己暗示にかかっている。</p> <p>教員は誰しも、「自分の指導によって生徒が変わったと実感したい」という自己効力感の達成意欲を持っているので、もし、教員自身が「社会の仕組みや経済の働き」についての理解を深めることができれば、つまり<u>教科の指導内容が実際に使われる「現場 (=社会)」</u>についての理解を深めることができれば、教員が自信を持って教科を指導していくことにつながる。</p>

平成29年3月

一般社団法人CEEジャパン

プログラムの全体概要

本項では、下記の内容を次の順に従って述べる。

本プログラムの目的

本プログラムの概要

本プログラムの特徴

期待される効果について

実施内容の詳細

- ・プログラム全体の仕組み
- ・プログラム実施者（教育委員会や学校）の通知資料
- ・プログラムの個別説明／狙い、内容説明、効果

本プログラムの目的

- ① 教員の「どこか自信のなさ」の原因が「社会の仕組みや経済の働きに関する認識不足」にあると考え、認識不足解消のためのプログラム「教員向け経済教育」を提供する。
- ② プログラム提供に加えて、そのプログラムを体験型実学演習として実地に体験し、教員の「私でもコストをかけずに取り組める」という安心感とやる気を喚起する。

本プログラムの概要

- ① 教員向け経済教育の分野では世界的規模と実績を持つ「CEE／Council for Economic Education」から、各種教材と実践ノウハウの提供・講師の派遣を受け、教員を対象に経済教育を実施する。
- ② いきなり経済理論の講義から入ると苦手意識が先行するので、経済を学術理論としてではなく生活実体と捉え、講義中心ではなく現実に起こっている実体を肌身感覚で理解ができるよう、実学体験を多用したアクティブラーニング型のワークショップを実施。
- ③ まとめの段階で、経済学講義を通じて「体験型実学演習」で得た知識に理論的裏付けを行う。

本プログラムの特徴

- ① 研修受講者には、とかく「書きながら聞く」という習慣がついているが、「考えながら聞く」という受講態度を求め、一人の発言は他の受講者にも資するという考えのもと、指名方式で積極的な意見の発露を求める。
- ② 「個と社会の関わり」や「人生は選択の連続である」など日々の生活に密着したテーマを取り上げるので、誰もが発言しやすく全体の意見交流が活発になる。
- ③ 教員自身が「社会の仕組みや経済の働き」を理解して、自分自身の経済的リテラシーを高めると「経済は苦手」という意識が払しょくでき、教科指導にも自信が生まれる。
- ④ 教員が経済に関する知見情報を十分有していなくとも、指導が円滑に行えるようレッスン案の狙い・展開事例・副教材のテンプレートが指導マニュアルに網羅されている。

期待される効果について

教員向け経済教育の受講者が、「経済」は人の意志（選択と意思決定）の結果生まれた生活実体そのものであり、「経済学」はそれを理論的に学術体系化したものであると気づく。そこを起点に、経済実体の最小単位が自分の日常行動と生活様式に密接な関係があるとの理解に行き着き、経済が身近なものとして受け入れて苦手意識が払しょくされると、教科で教えている内容と生活実体とのつながりが認識でき、教科指導に自信が湧く。

実施内容の詳細

1. 研修プログラム全体の仕組み

- ① なぜ経済的リテラシーが必要か…「アクティブラーニング」との同調性
- ② 社会の仕組みと経済の働き「人と社会・人と人の関係性」についての基本理解
- ③ 選択と意思決定…「人生は選択の連続だ」の実感的解説
- ④ 体験型実学演習の効用と子どもの社会的自立力育成の関わり
- ⑤ 校種毎のワークショップを実施
- ⑥ ワークショップのプログラムはCEE教材からの使用
- ⑦ CEE米国本部からの現職教員の派遣と模擬授業の披露（通訳要）

2. プログラム実施の場所又は共催者（教育委員会や学校）の通知資料（雛形）

- ① 独立行政法人教員研修センターの受講者対象の経済教育ワークショップ

独立行政法人 教員研修センター
平成28年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業

教員向け経済教育 特別ワークショップのお知らせ

解が正しいか否かに問わず、解に至った考え方を引き出し、それを全員が共有することによって全体の知的レベルを上げていく。発言する抵抗感をなくし、意見を述べる勇気や考えることの楽しさを認識させ、「学ぶ喜び」を体得させる手法を探る。

事業名：独立行政法人 教員研修センター 平成28年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業
日時：2016年12月4日（日）10：00～15：00（開場09：45）
主催：一般社団法人CEEジャパン
対象：独立行政法人教員研修センターの研修受講者で、任意に参加を希望される方（30名限）。
参加費：無料（昼食は当方で差上げます）
登録：別紙にご記入の上、本日より提出ください。お申し込みが限度を越える場合は、当方で抽選を行い結果をメールでご連絡します。
会場：アーバンホテルつくば会議室（研修センターから徒歩4分前後）
<http://www.urbanhotel.co.jp/> (029) 877-0001
〒300-3257 茨城県つくば市筑穂2丁目1-2
内容：経済学を古典的スタイルで行う講義ではなく、小・中・高校生に「学ぶ喜び」を感じさせつつ、社会を生きていく上で必要になる「経済的なものの見方・考え方」を、教科の枠を越えてどう教えるかを探るため、教員向け経済教育で先進的な取り組みをしている米国現職教員から実際の紹介と説明を受ける。（完全通訳付き）

講師：
 **TAWNI H. FERRARINI, Ph.D.**
Sam Cochran Professor and co-director of Center for Economic Education and Entrepreneurship at Northern Michigan University, and the 2015 President of NAEAE.
 **NANCY USTALO**
A third grade teacher at Sandy Knoll Elementary School in Marquette, believing that teaching economic concepts must begin for early aged students at elementary school.
 **DEREK D'ANGELO**
20th year of teaching at Eisenhower High School in Shelby Township, currently involved in a project to increase financial literacy in middle schools across Michigan.
 **中野 善弘**
一般社団法人CEEジャパン代表理事兼専務
公益社団法人ジュニア・チャームメント日本特別顧問
中央教育審議会委員、青山学院大学客員教授等歴任
日本義務教育学会理事

時程：10：00～12：00
・青少年に対する早期経済教育の意義・効用及び米国事例…トニー・フェラーニ教授
・前日に引き続き「アクティブラーニング手法による教員向け経済教育ワークショップ」…中野善弘
※ プログラム教育の実物モデルを使用した米国事例の実践・紹介を含む。
12：00～13：00 昼食（当方で差上げます）
13：00～15：00
・米国中学校に於ける経済教育の事例と効用…デレク・アンジェロ先生
・米国小学校に於ける経済教育の事例と効用…ナンシー・ユシテイロ先生
・参加者全員による質疑応答・意見交換・自由討議

連絡：中野善弘：メール <yn@cee-japan.org>
携帯（080）3487-6472


アーバンホテルつくば



- ② 埼玉県戸田市教育委員会と共催の教員研修ワークショップ
- ③ 秋田県大館市教育委員会と共催の員研修ワークショップ教員研修ワークショップ

独立行政法人教員研修センター
平成28年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業

平成28年度 戸田市教育委員会 経済教育研修会

1 日 時 平成28年12月6日(火) 10時50分～16時30分

2 会 場 戸田市立戸田東中学校及び戸田東小学校

3 講 師 一般社団法人CEEジャパン 代表理事専務 中許 善弘

CEE (Council for Economic Education)
Northern Michigan University Ms. TAWNI FERRARINI, Ph.D.
Eisenhower High School Mr. DEREK D'ANGELO
Sandy Knoll Elementary School Ms. NANCY USITALO

4 対象者 戸田東小学校・喜沢小学校・戸田東中学校の教職員

5 内 容 (1) CEE スタッフ(米国現職教員)による中学校での特別授業
(2) CEE スタッフ(米国現職教員)による小学校での特別授業
(3) CEE ジャパンによる小・中合同経済教育ワークショップ研修会

6 日 程 10時31分 はじめの会(戸田東中学校 校長室)
10時50分～11時40分 戸田東中学校 1年2組
CEE スタッフ(米国現職教員)による中学校での特別授業
移動等(戸田東小学校へ)
12時20分～13時00分 戸田東小学校
6年生児童との給食
休憩等
13時50分～14時35分 戸田東小学校 6年 組
CEE スタッフ(米国現職教員)による小学校での特別授業
授業見学・研修準備
15時30分～16時30分 戸田東小学校体育館
CEE ジャパンによる小・中合同経済教育ワークショップ研修会
終了後、CEE 講師との意見交換会(自由参加)
終わりの会(戸田東小学校 校長室)

独立行政法人教員研修センター
平成28年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業

大館市教育委員会 経済教育研修会

1 日 程 平成29年2月20日(月)

2 会 場 大館市立川口小学校、下川沿中学校

3 講 師 一般社団法人CEEジャパン/代表理事専務 中許善弘

CEE (Council for Economic Education)
Mr. Mike Raymer, Georgia State Council for Economic Education
Ms. Angie Battle, Teacher at Langston Road Elementary School
Ms. Stacy Dockter, Teacher at DeSana Middle School

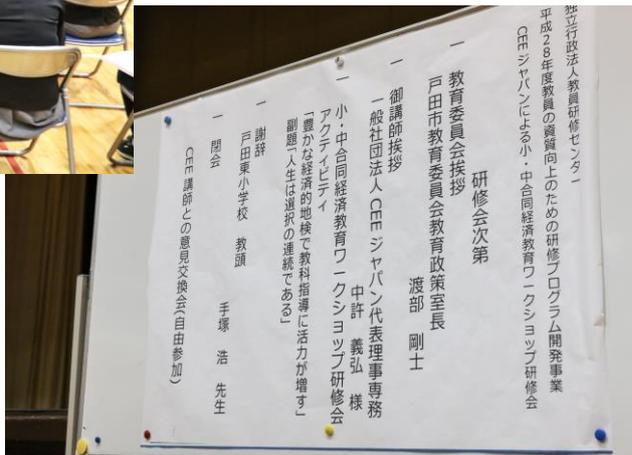
4 対象者 大館市立川口小学校児童、下川沿中学生徒、両校教員、大館市教員

5 内 容 (1) CEE 派遣米国現職教員による中学校での特別授業
(2) CEE 派遣米国現職教員による小学校での特別授業
(3) CEE ジャパンによる小・中合同経済教育ワークショップ研修会
※ 完全通訳付き

6 日 程 10時00分 はじめの会(大館市下川沿中学校 会議室)
10時35分～11時25分 大館市立下川沿中学校 2年生
★CEE派遣米国現職教員による中学校での特別授業
移動等(大館市立川口小学校へ)
12時05分～12時45分 大館市立川口小学校
児童との給食
休憩等
13時50分～14時35分 大館市立川口小学校 6年生
★CEE派遣米国現職教員による小学校での特別授業
休憩・研修準備
15時00分～16時30分 大館市立川口小学校講堂 ランチルーム
CEEジョージア州経済教育センター所長による講話
CEEジャパンによる小・中合同経済教育ワークショップ研修会
アクティビティ「豊かな経済的知見で教科指導に活力が増す」
副題「人生は選択の連続である」
終了後、CEE 講師との意見交換会(自由参加)
終わりの会(大館市立川口小学校 校長室)



**独立行政法人教員研修センター 平成28年度
教員の資質向上のための研修プログラム開発事業**
埼玉県戸田市教育委員会
戸田東中学校・東小学校教員
CEE 本部派遣の現職米国教員



4. プログラムの個別説明／狙い、教材、授業の進め方、理解ポイント、指導ポイント

共通情報

- ・対象：小・中・高の教職員、教育委員会職員
- ・型式：ワークショップ、カンファレンス
- ・規模：ワークショップ／20名～30名
カンファレンス／100名～500名
- ・期間：1日3時間コース、1日6時間コース、宿泊型2日間コース
その他、学期単位、通年単位
- ・教材：「人生は選択の連続だ」…全プログラムに共通して使用
The 6 Core Economic Principles



個別説明／狙い、教材、授業の進め方、理解ポイント、指導ポイント

- ① 「人生は選択の連続だ」何を得るかより、何を失うかという考え方…人の選択のあり方

狙い

資源は無尽蔵にあるわけではなく、自ずから限りがある。従って、人が持続的な生活体系を維持するには、その資源の使用は選択的にならざるを得ない。しかし、どういう選択・意思決定をすべきかは人それぞれによって異なっているので、全体として賢明な選択に向けて一致できるかどうかは不明である。その集団の選択が適正であるかどうかを問う前に人にはそれぞれの歴史的所産の中に個別の判断のためのリソースがあり、判断のプロセスは異なっても結果は同じであったり、プロセスは同じでも結果が違っていたりする現実を理解することが狙いである。

教材

前出「人生は選択の連続だ」の第1章／レッスン1：人生は選択の連続だ（右下）

授業の進め方

- ・クラス全体に下記の3問を問いかけ、各自で自分の考えを紙片に書き留める。
「来週、進学模擬テストがあるので勉強する①、大好きな歌手の引退コンサートチケットを貰ったのでコンサートに行く②、好意を持っている相手からデートに誘われた③。さて①②③のどれを選ぶか」
- ・同じ意見を持つグループに別れ、その中で意見交換する。
- ・全体でグループの意見を述べ合う。

理解のポイント

- ① 自分及び自分と同じ意見でも、考えきれなかったアイデアを相手グループから出されることを知り、多様な意見のあることを実感。
- ② 判断のプロセスは異なっても、結果は同じであったり、プロセスは同じでも結果が違っていたりする現実がある。
- ③ 選択すると他方は諦めることになり、選択とは一方を諦めるということ。

指導のポイント

- ・個別の意見から全体の意見まで、それぞれが発露し、聞き合うことで、自分以外の考えを共有でき、知見の範囲が一挙に広がる。
- ・本人にとっては、諦めた方にも採用した方とほぼ同じくらいの価値があり、選択とは価値の交換になり、お金を払って（犠牲にして）モノを手に入れる行為と同じように、諦めた方の価値が採用した方のコストになっている。これをオポチュニティコストというが、選択とは「何を得るかより、何を失うか」を考えることが大事である。
今やろうとしていることがあった時、「これをしなければ何をさせていただこう」と考えることも、自分にとって正しい選択につながる。
- ・選択の対象はモノだけではなく、時間や意見など目に見えないものもあるので、日常のあらゆる事象が対象となってくる。

Lesson1

人生は選択の連続だ！

「何を得るか」より、「何を失うか」を考える生き方

このレッスンの狙い

毎日の何気ない生活・行動の中で、みなさんは多くの意思決定を無意識のうちにしています。しかし、その意思決定を改めて考えてみると、本当は別の選択をしていたほうが良かった場合もあるはずです。これを言い換えると、より良い選択肢が犠牲にされ、誤った選択肢が優先されてしまったと言えるでしょう。本レッスンでは、この犠牲にした選択肢を意識的に見直して、ベストな意思決定のあり方を学びます。

1 授業の展開

問いかけ	なぜ、人生は 選択の連続なのか	先生が生徒に問いかけます
アクション1 個別ワーク	究極の選択に挑戦	先生の問いかけに応じて、その訳を探るため、まず、各自それぞれ、身近な生活の中にある選択に挑戦します。
アクション2 ディスカッション	悩み・あきらめたもの	参加者全員でのディスカッションを通じて、選択の結果について意見を出し合い、検証します。ひとつの選択値を選ぶということは、他の選択肢をあきらめるということを認識しましょう。
異なる 知的挑戦	オポチュニティコスト について	あきらめた方の価値が、選択した方のオポチュニティコストになります。今後、選択を行う時、オポチュニティコストを考えることによって選択がよりの確なものになります。
オプション	PACED意思決定 プロセス	物事を合理的、効率的に決定するためのひとつの手法を紹介します。

② 「経済の6原則」…人が行う選択・意思決定に関する6原則

狙い

経済現象は人の選択・意思決定によって起こされるが、大きく6つの原則に分けられる。従って、それを理解することによって経済現象の基本が理解できるようになる。

教材

6 Core Economic Principles

授業の進め方

ページ右下の写真のように、部屋中央にアクティビティ用のスペースを作り、理論的な説明をする前に、アクティビティを多用し、理論の前に肌身感覚で経済現象を理解する。そうすることにより、逆に経済現象も自分なりに抽象化して対応するスキルが身につくようになる。

理解のポイント

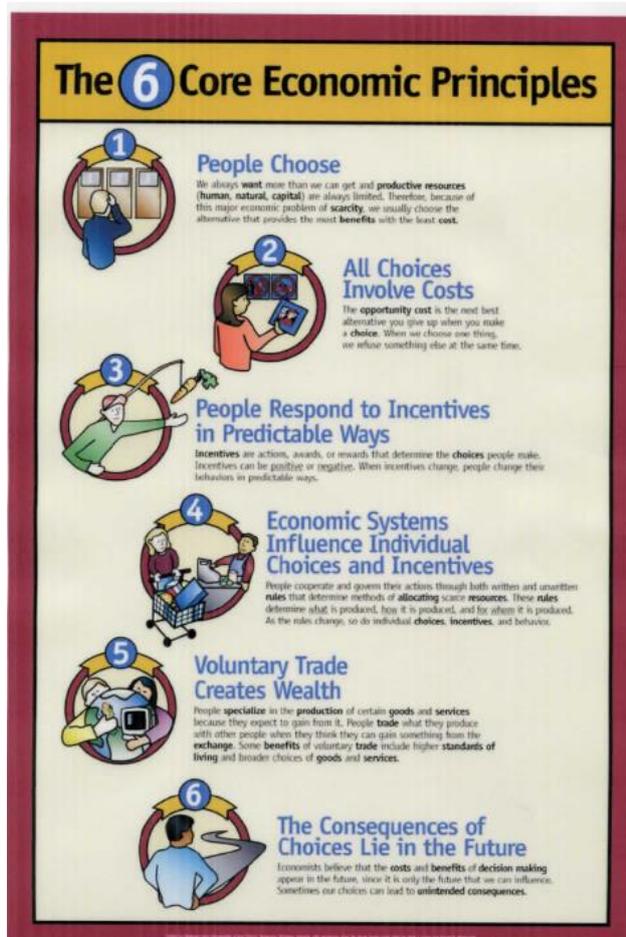
- ① 人は必ず選択する
- ② 全ての選択にはコストがかかっている。
- ③ 人はインセンティブ（メリット）に予測通りに反応する。
- ④ 経済システムは人の選択とインセンティブに影響を与える。
- ⑤ 自由な取引（交換）は人を豊かにする。
- ⑥ 選択の結果は将来に顕在化する。

指導のポイント

- ・ 指名制にして、発言を求めることで意見交換をすることの楽しさを味わえるので、最初は抵抗があるが勇気をもって実行する。
- ・ 取り上げるケースは身近で、身につまされる内容が好ましい。

それによって、誰でもが一度は体験した内容なので意見の発露がしやすくなる。

- ・ 事前テストと事後テストを設定することによって、自分自身で知見の程度を測定できるようになるので、受講者にとってはアンケートを書くより意味がある。



④ 「世界は助けあって生きている」…資源の希少性と持続的発展の共存

狙い

資源は世界各地にバラバラに存在しているので、人は自分の国で生きていくにも、国同士で自由に取引・交換をしなければ、生活に供する色々なモノが手に入らない。その事実をアクティビティを使って肌身感覚での理解を促す。

対象

小学校6年生

教材

- ① 太めのヒモを巻き付けた球状のボール
- ② 各国の名前と保有資源を書いた首かけ札

授業の進め方

生徒を右写真のように円形に座らせる。最初の一人にボールを持たせ、自分が欲しいと思うモノを持っている国の方に転がさせ、それを繰り返していくと、最後は蜘蛛の巣のようにみんなつながる。

最後に、つながったヒモの一部をハサミで切ると、全部が床に落ちる様子を観察する。

理解のポイント

- ① 一国だけでは、国民全部が生きていくための生活財（衣食住エネルギーなど）は手に入らない。
- ② 紛争や災害が起こったりすると、自分の国とは関係ないところであっても、全体に大きな影響を来し、それぞれの国の人々の生活が立ち行かなくなる。
- ③ 資源はエネルギーだけではなく、人や技術なども有限であること。

指導のポイント

- ・ただ単にアクティビティだけを行うのではなく、一つのアクションが行われるたびに、なぜそのアクションを起こしたのかの発言を求める。
- ・自分の国には必要な多くのものが外国にあり、国際理解は生きていく上で大事である。
- ・個別の国の都合だけでは、世界が成り立たないこと。
- ・回答を求めなくてもよいので、どうすればお互いの共存関係が担保できるかという課題は出しておく。
- ・国連や国際機関の役割などについても言及し、グローバルに理解すること。



⑤ 富める国（GDPの大きな国）と発展途上の国（GDPの小さい国）

狙い

多くの国の経済状態を知ること、各国が果たす役割や責任の内容が見えてくる。アクティビティを通じて、日頃から余り親しまない国際問題に理解と興味を持つようになる。

対象

中学2年生

教材

- ① 世界のGDPマップ
- ② 各国の国力を表す表
- ③ 豊かさを表した札
- ④ 投票シール

授業の進めかた

クラスを二人一組に分け、それぞれの組に各国の国力を表す表を配る。その内容を読んで、豊かさを三段階に分けた場所（柱など）にシールを張り付ける。各組毎に、決めた理由の説明を発表させる。最後に真実が発表され、自分で正誤を判定する。

理解のポイント

- ① 国土面積が大きい、人口が多い、地下資源が多くある、農業が盛ん、大学の数が多い、銀行が多いなど、各国の現状が多岐にわたって述べられている。
- ② 国が豊かであるとう基準をどこに置くかということから考えさせる。
- ③ 資源はどの国にとっても重要であるが、それを生かすという視点に教育が出てくる。

指導のポイント

- ・地勢学的な状況だけでは国の豊かさを計れないこと。
- ・保有している資源、輸入している資源もそれを生かす力が豊かさの源泉であること。
- ・但し、真の豊かさとは何かの発言を求める。
- ・持てる国の役割・責任とは何かを問う。



⑥「この海は誰のもの？」…私的利益と公的貢献とのディレンマ

狙い

生きるための生業と資源保護の活動をどう両立させるかは、地球規模の課題であるが、一人一人にはどこまで関心が高いかという現状から、責任としてのあり方までを問う。

教材

- ・魚の形の切り紙多数
- ・50円模擬紙幣
- ・100円模擬紙幣
- ・ホワイトボード
- ・意見の記録係り

授業の進め方

6～7人を選び中央待機。各人は漁師であることを伝え、これから漁をすると告げる。中央のアクティビティスペースに魚の切紙をランダムに蒔く。最初の漁は一匹50円で引き取り、二回目の漁は

100円で引き取るとルール説明。合図で争うように漁をして、漁場には魚がなくなる。2回目の漁をする合図をしても、漁場には魚がない状況を見て初めて乱獲を知る。資源保護のアイデアを出し合い、それをホワイトボードに記録して全員で共有する。

理解のポイント

- ① 一回目の交換価格は二回目の半分にも関わらず、競争が始まると先を争って取り尽す。
- ② 取り尽して初めて資源保護の重要性意知る。しかし、ほとんどの場合、生業が大事という観念にとりつかれる。
- ③ 競争が先行するという事実を先に見てしまうと、環境問題への対応はいかに困難であるかが分かる。課題を主体的に捉えると解決は容易ではないという切実な理解。

指導のポイント

- ・私的利益と公的貢献という狭間で出される提言・意見・感想には非常に現実的で重いものがあり、教育的価値が高い。体験（アクティブラーニング）を通じて大事なことは、押しつけがましい理屈ではなく、受講者自らが辿り着いた結論であることが重要。

Lesson
6

この海の魚は私のももの!?

私的所有権が経済活動にもたらすもの

アクション

教室の中央に作られた漁場の周りでは漁師役の生徒8、9人が今にも魚を獲ろうと、意気込んでいます。

第1ラウンドは漁場の中で自由に魚を獲ることができます。

第2ラウンドは「漁有権」が各自に割り当てられます。

漁師の行動にどのような違いが生じるでしょうか？



① レッスンで学ぶこと

人が何らかの行動をとるときは、その人にとって最も高い見返りが得られるように行動をするものです【インセンティブ】。第1ラウンドと第2ラウンドとでは漁師役の生徒の行動には違いが生じるはず。この行動変化は「漁有権」を設定したことにより起こります【私的所有権】。

本レッスンでは、これらを通じて、私的所有権が経済活動にもたらす効果について学びます。

② 教材・用意するもの

教材・用意するもの	数	備考
(1) アクティビティシート1 (魚のカード)	24 匹分	アクション用 (コピーし切り取って使用)
(2) 景品 (お菓子など)	96 個	アクション用 (各ラウンドにつき48個必要)
(3) ビニールテープ	1 本	アクション用 (漁場を設定するのに必要)



ルール説明



魚の切り紙を蒔く



先を争って取り込む



乱獲に気づいて途方に暮れる



自分の正直な心境の変化が吐露される



ディレンマからの提言は重い。



[キーワード]

経済教育

選択

意思決定

オポチュニティコスト

私権と公共

グローバル

希少性

共存社会

競争

【問い合わせ先】

一般社団法人CEEジャパン

郵便番号：140-0001

住所：東京都品川区北品川3丁目9-30

電話；（080）3487-6472

担当：中許善弘（なかもとよしひろ）